

公益社団法人 日本臨床細胞学会  
2022年度第2回理事会 議事録

日時： 2022年6月10日（金）16:00-18:00  
場所： グランドプリンスホテル新高輪  
国際館パミール1階 瑞光  
WEB 同時開催

役員総数： 42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数： 理事 38名

（理事）（現地） 佐藤 之俊、青木 大輔、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、植田 政嗣、榎本 隆之、大平 達夫、岡本 愛光、小田 瑞恵、川名 敬、齋藤 豪、澁木 康雄、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、長尾 俊孝、中村 直哉、廣岡 保明、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、森井 英一、矢納 研二、山口 倫、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

（理事）（WEB） 小笠原 利忠、羽場 礼次、宮城 悦子、森谷 卓也

出席総数： 監事 3名

（監事）（現地） 長村 義之、佐々木 寛、土屋 眞一

（総務委員会委員）（現地） 山下 博

（総務委員会幹事）（現地） 片岡 史夫、星 利良

（総務委員会幹事）（WEB） 和田 直樹

（制度審議委員会幹事）（WEB） 佐々木 陽介

（中田公認会計士事務所）（WEB） 中田 ちず子

（総会副議長）（現地） 野村 弘行

本理事会は、定足数の半数以上（理事 39名中 37名出席）を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については\*印を付す。

本理事会の開催にあたり、\*佐藤 之俊 理事長、\*齋藤 豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、\*中村 直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、\*森谷 卓也 副理事長[学術、国際交流、IAC]、\*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、\*岡本 愛光 副理事長

[財務、渉外]の挨拶および報告が行われた。

\*理事長報告・挨拶（佐藤 之俊）

新型コロナウイルス感染も完全に収束に至っていないため、今回の理事会もハイブリッド形式での開催となる。本日は、明日の総会前に重要な議決事項があり、理事候補者の選挙についての審議や2025年度春期大会の会長の選考などの事項が含まれており、しっかりとした議論をお願いしたい。各種委員会に関しては、新年度となりコロナの状況も落ち着きを取り戻している中で、学会のアクティビティをさらに高められるよう、よろしくをお願いしたい。また、今回の第63回春期大会の開催に関しては、岡本大会長はじめ多くの方々のご尽力で、ある程度対面の形式での開催が可能となったことに御礼を申し上げたい。

\*副理事長報告（齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光）

齋藤 豪 副理事長： 懸案の細胞診制度管理アドバイザー（子宮）を、今回の学会からスタートすることができた。今後これを軌道に乗せて、細胞診専門医の価値を上げることができるよう努力していきたい。

中村 直哉 副理事長： コロナ禍で皆様にご尽力いただいている。今後もWEB・対面の両方において工夫をしながら試験・教育の効果を上げ、細胞検査士・細胞診専門医の専門性を担保できるように努力していきたい。

森谷 卓也 副理事長： 2022年11月に米国で開催予定のICCでは、JSCCからコンパニオンミーティングの申し込みをしている。全て対面での開催となるかまだ不明であり、情報が得られ次第報告する。また、国際交流委員会から新たな提案があるので審議をお願いしたい。

森井 英一 副理事長： 評議員の申請・審査をはじめ、導入できる場所では電子化を進めている。できるだけ使いやすいシステムの構築を目指している。理事選挙についても電子化の導入に向けた議論を開始していきたい。

岡本 愛光 副理事長： 収支相償剰余金の有意義な用途について、皆様の意見を賜りながら検討していきたい。

前回（2022年度第1回理事会）議事録について

2022年度第1回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2022年5月24日現在）

全会員数：13,047名

（正会員 5,739名、準会員 7,062名、名誉会員 39名、功労会員 191名、図書会員 15件）細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,162名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,911名、細胞診専門歯科医 113名）

FIAC：111名 MIAC：33名

細胞検査士数：8,073名（実数）（認定10,942名）

CT(IAC) : 3,789名

物故会員 (2022年1月19日～2022年4月12日)

正会員 <sup>もりかわ あきこ</sup> 森川 彰子殿 (愛知医科大学医学部 微生物・免疫学教室)

黙祷

#### 大会準備状況

第63回春期大会 (岡本 愛光、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール、2022年6月10日 (金)～12日 (日))、第61回秋期大会 (伊藤 潔、仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日 (土)～6日 (日))、第64回春期大会 (藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日 (金)～11日 (日))、第62回秋期大会 (横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日 (土)～5日 (日))、第65回春期大会 (森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日 (金)～9日 (日))、第63回秋期大会 (進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日 (土)～17日 (日))の準備状況に関する報告が行われた。

#### 【常置・各種委員会から報告】

#### 総務委員会 (委員長 進 伸幸) 【資料1～2】

##### 〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする
2. ZOOMにて総務委員会を開催した (資料1)

事務局業務のオンライン化について、各種セミナー等のオンライン開始、各種募集のオンライン化、資格更新などの業務のオンライン化などについて、メリット、デメリット、今後の課題などを確認した (資料2)。また、デジタル会員証の導入を進める予定について、佐藤理事長より以下の説明が行われた。デジタル会員証は各々のマイページにログインすると見える様にし、スマートフォンを会員証として使用出来る様にする予定。マイページのセキュリティは強化済み。カードを持ち歩く必要がなくなり、再発行の手間・料金もかからない。すでにシステムはインターグループが開発済みで、費用はほとんど掛かっていない。会員の利便性を目的として準備は進んでおり、会員のマイページの中に作成されて利用できるように計画している。カードの紛失もなく、マイページの充実の一環であり、現行のカードは引き続き利用できる。カードとデジタルの併用も可能である。

##### 〔審議事項〕

なし

#### 情報処理委員会 (委員長 伊豫田 明) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会ホームページ、マイページの改善

学会ホームページについては、「INTER GROUP」社に依頼することで決定、現在手続きを進めている。

2. 以下の依頼があり対応した。

・2021年細胞診専門医資格認定試験副委員長よりメーリングリスト作成のため、2021年度細胞診専門歯科医の合格者のメールアドレスと所属の一覧の開示請求あり、例年開示している項目であるため、個人情報保護に留意して取り扱っていただくよう付記して許可

・福岡県臨床細胞学会のHPから学会HPへの接続依頼があり

・倫理委員会より、学会発表・論文投稿倫理指針について「カテゴリー分類フローチャート図」のホームページへの掲載依頼あり

・株式会社南江堂洋書部より、当学会HPへのバナー広告掲載申込があり、委員会審議にて「許可」と判断

・6月03日（金）17:00～19:00 WEBにて委員会を開催予定

・編集委員会より、投稿規定のQ&Aの学会HPへの掲載依頼あり

・医療科学研究所より、研究助成募集の案内の学会HPへの掲載依頼あり

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2022年度学会賞・技師賞・班研究課題の推薦募集についてイエローページへ掲載

2. 班研究に対するグラントナンバーを作成する

3. 2021年度最優秀論文賞選考結果掲載と応募者への結果報告

4. overdiagnosis、学会のオンデマンドのコンテンツの件数が適切なのか議論をしていく。

〔審議事項〕

なし

計理委員会（委員長 田畑 務）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 秋の監査会を、9月14日（水）に行う予定である。秋の監査会では、第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）の会計報告の確認がおこなわれる予定である。

2. その他

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 矢納 研二）【資料 1～2】

〔報告事項〕

1. 投稿論文の、編集作業中（資料 1）。
2. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間 6 本を予定。
3. 春期大会、秋期大会開催中に 2 回、それ以外に 4 回の編集委員会を開催予定。
4. J-STAGE 運用に関する広報活動を、編集委員会幹事を主体として作成。  
ホームページに Q&A 形式を学会ホームページに掲載することが完了している（資料 2）。

〔審議事項〕

なし

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 令和 4 年度細胞診専門医資格認定試験  
12 月 17 日（土）AP 浜松町にて実施予定。会場は既に仮予約済み。  
採点業務用の新しいソフトを本年より使用予定で準備を進めている。
2. 令和 3 年度教育研修指導医新規申請および資格更新  
新規申請者 77 名全員を認定。暫定教育研修指導医 8 名中、1 名が教育研修指導医に移行。  
全更新対象者数 95 名中、更新可 91 名（95.7%）、未申請 3 名（3.2%）、更新辞退 1 名（1.1%）。  
未申請者には書類提出を督促中。  
現在、教育研修指導医は 1108 名、暫定教育研修指導医は 7 名。
3. 令和 4 年度細胞診専門医資格更新  
今年度の対象者ナンバーは、1-593、900-1005、1242-1308、1510-1587、1798-1876、2275-2366、2673-2765、3052-3137、3405-3500、8018-8034、8056-8060 である。5 年毎更新の新単位制度による 3 回目の資格更新となる。今回も web 申請を予定している。
4. e ラーニングについて  
e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始し、順調に稼働している。資格更新の際の不足単位の取得に利用でき、評価いただいている。現在までに共通講習 35 コンテンツ（含 指導医講習 9 コンテンツ）、領域講習 58 コンテンツ、検査士講習 18 コンテンツをアップした。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）【資料 1～5】

〔報告事項〕

1. 2022 年度 新規施設認定（案）について（2022 年 5 月 13 日（金））（資料 1）

- 9 施設の申請があり審査の結果、①認定4施設、②条件付認定2施設、③認定不可は3施設、となった。認定不可の理由として、外部精度管理への参加がなかった、陽性報告書の一部で細胞診専門医の署名がなされていなかった、非常勤の細胞診専門医が定期的に検鏡にきていない、などが認められた。条件付認定の理由としては、細胞検査士の健康被害事象を記録していない、細胞検査士の1日最大検体数を定めていない、などであり、改善されれば通常の認定施設に戻す予定である。
2. 2022年度 新規教育研修施設認定(案)について(2022年5月13日(金))(資料2)  
1施設の申請があり審査の結果認定された。
  3. 2022年度 認定施設 更新状況 (2022年5月10日(火)現在)  
全更新対象施設数:73施設、更新可:67施設(91.8%)、未完了:1施設(1.4%)、未申請:4施設(5.5%)、更新辞退:1施設(1.4%)
  4. 2022年度 教育研修施設 更新状況 (2022年5月10日(火)現在)  
全更新対象施設数:51施設、更新可:43施設(84.3%)、未完了:1施設(2.0%) 未申請:7施設(13.7%)
  5. 2021年度 認定施設年報提出状況 (2022年5月10日現在)  
全869施設中 提出:828施設(95.3%)、未提出:41施設(4.7%)
  6. 2021年度 教育研修施設年報提出状況 (2022年5月10日現在)  
全322施設中 提出:316施設(95.2%)、未提出:16施設(4.8%)
  7. 2021年度・内部精度管理(コロナ禍のため4施設の書類審査):  
内部精度管理WG(浦野誠WG長)のもとで4施設(横浜市立大学附属市民総合医療センター、公立学校共済組合近畿中央病院、千葉徳洲会病院、株式会社中部パソロジー)の審査中
  8. 2022年度・内部精度管理(実地調査 4カ所):  
内部精度管理WG(浦野誠WG長)のもとで2022年7~9月頃実施予定(コロナ禍の状況によっては書類審査に変更予定)
  9. 外部精度管理(全認定施設でコントロールサーベイ):(資料3)  
外部精度管理WG(湊宏WG長)のもとで、2022年度に実施予定。問題作成委員が決定した。6月中に問題作成を行い、全認定施設に送付し回答を得る予定である。
  10. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えた。
    - ・施設認定に関する施行細則(附則)の改訂について(資料4)基本的事項に、『細胞診検査を行う施設は、細胞診検査の精度の確保に関わる責任者(医師・歯科医師または細胞検査士)を配置し、細胞診検査に対して日常的に内部精度管理に努力すること』を追加し、検体の事務処理について、『検体取り違いなどの過誤については該当事項を記録し、5年間以上保管すること』追記した。標本、報告書の保存については、『細胞診標本および細胞診報告書は一定の保存期間を定めて管理すること(5年間を基本とする)]に変更した。細胞検査士の作業負荷の管理について、『日検鏡枚数は90

枚を上限)』を追記した。検体の種類別の統計量算出について、消化器(唾液腺含)と口腔を追記した。年報の書式が一部変更になるかもしれない。

・精度管理ガイドラインの改訂について(資料5)

施設認定に関する施行細則(附則)に記載されている精度管理の元となる精度管理ガイドラインが学会ホームページに掲載されていない点、平成29年の医療法の改正により精度管理に関する責任者を置いた方がよい点、ガイドラインの一部が実情に合わなくなってきた点などにより、ガイドラインを改訂することになった。追記した項目、記載場所を変更した項目としては、『細胞診検査の精度の確保に関わる責任者(医師・歯科医師または細胞検査士)を配置』、『検体採取・検体処理に関する事項(1)適切な検体採取に努め、検体の取り違い防止や検体の量的・質的不良の発見・対処の方策を定めること。(2)受付検体の記録(検体番号、患者番号、氏名、年齢、性、臨床診断、これまでの細胞診断など)を台帳あるいは電子媒体として保存すること。(4)通常の検体処理に加え、がんゲノム診療に利用できる細胞診検体の処理に関しても、公益社団法人日本臨床細胞学会作成の「がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針」を参考に習熟に努めること。(5)感染症(新興感染症など)の拡大防止のため、検体の採取、移動、処理、等に十分な注意を払うこと。』、『細胞診報告書の署名は押印で代用することができる。また、電子媒体の場合は、個人の識別できる電子サインで代用することができる』、『(1)施設内細胞診検討の推奨難解症例や稀少症例などについて、できるだけ多くの臨床医、細胞診専門医、細胞検査士が加わり、施設内において細胞診の検討を行い、記録を保存する。(2)他施設合同細胞診検討会の推奨細胞診専門医と細胞検査士などの関係者が少数の施設では、他施設との合同細胞診検討会(細胞診検討を含む検討会)に定期的に参加し、記録を保存する』

これらの内容は施設認定制度委員会で承認され、今後、細胞診専門医委員会(植田委員長)に確認していただいた後、次回理事会で承認を得るように進めていきたい。

[審議事項]

なし

細胞検査士委員会(委員長 都築 豊徳)【資料なし】

[報告事項]

1. 2022年度(第55回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は2022年10月29日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施予定。

二次試験は2022年12月3日(土)・4日(日)に、ウインクあいち(愛知県、名古屋市)にて実施予定。(東京での実施と比較して費用が1/4まで削減できている)

2. 2023年CT(IAC)資格認定試験

2023年は実施予定。開催時期は6月24日(土)を予定。試験会場はAP浜松町を仮押さ

え中。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2021 年度細胞検査士資格更新結果

全更新対象者数 1,807 名

更新可	1,653 名 (91.5%)
保留更新 (海外)	2 名 (0.1%)
条件付更新可	10 名 (0.6%)
資格失効	25 名 (1.4%)・・・通知済み
更新辞退	19 名 (1.0%)
退会・逝去	98 名 (5.4%)

2. 2022 年度細胞検査士資格更新対象

1-8、9-68、195-272、440-584、913-1060、1354-1557、2259-2457、  
3120-3457、4210-4452、5135-5349、6051-6203、6749-6943、7686-7876、  
8613-8869、9559-9879

※2023 年 2～3 月に更新審査予定

3. 2022 年度第 1 回細胞検査士資格更新審査委員会開催

2022 年 5 月 12 日に上記委員会を WEB 開催した。

昨年度の更新結果と本年度の更新作業スケジュールの確認、ならびに 2021 年度第 4 回理事  
事会にて承認された「細胞検査士資格更新委員会申し合わせ事項」の改定についての確  
認を行った。

〔審議事項〕

なし

教育委員会（委員長 生水 真紀夫）（代理 横山 良仁）【資料 1～2】

〔報告事項〕

1. 2022 年度各種セミナー開催予定（資料 1）

2. 第 47 回細胞診断学セミナー：講義を WEB で、鏡検を秋の第 61 回日本臨床細胞学会秋  
期大会（仙台）会期中に仙台で on site で実施することで準備中（資料 2）。25 人限定  
で募集予定で、後日 HP で募集開始する予定である。

3. 第 82 回細胞検査士教育セミナー WEB 開催



4. 第84回細胞検査士ワークショップ 10月1-2日、帝京大学で現地開催予定（濫木 康雄 理事より説明がなされた。）

〔審議事項〕

1. なし

渉外・広報委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 渉外・広報委員会委員長（三上）が5月12日（木曜、13:30～15:30）に開催された一般財団法人医療関連サービス振興会の令和4年度第1回衛生検査所調査指導中央委員会に副委員長として出席した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。2022年末までに第一次提案書を提出する予定であり、12月までにご意見、ご提案を寄せていただきたい。

2. 内保連からの「令和4年度診療報酬改定にかかる調査」について令和4年3月25日、回答した。

病理学会社会保険委員会との協議の上、「感染対策加算」「国際標準病理診断管理加算」については一部要望が反映したと回答した。

3. 今後の予定

2022年6月28日 内保連総会

2022年12月上旬 内保連へ第一次提案書提出

2023年4月 内保連への提案書最終提出締切

2023年4月 内保連によるヒアリングの実施

2023年5月 内保連各委員会での最終調整締切

2023年6月 提案書を厚労省に提出

2023年7月 厚労省のヒアリング

ご意見・ご提案があればお願いしたい。

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料集1～5】

〔報告事項〕

1. 2019年度、2020年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
  - 1) 2019年度報告書の不明部分を再度問合せし、修正中を行った。(資料1-2)
  - 2) 2020年度報告書の回収および集計中である。(資料3-4)
2. 地域連携組織に対する活動支援(子宮の日)について：
  - 1) 2021年度  
申請件数 44件(47件中)  
調査集計最終 内訳  
開催中止：10件(未申請3件含む)  
開催実施済：37件
  - 2) 2022年度(資料5)  
各地域学会より、申請書類の受付を行った。(2022年3月31日締切)  
今年度より、アンケートフォームを使用して提出をお願いしている。  
受付をおこなった37県の地域学会には、成果報告書の提出について案内を送付した。  
支援費用については5万円を上限とする。

[審議事項]

なし

#### 国際交流委員会(委員長 榎本 隆之)【資料1】

[報告事項]

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援  
第63回日本臨床細胞学会総会春期大会；2022年6月10日(金)～12日(日)；東京  
→新型コロナウイルスの蔓延により中止  
第61回日本臨床細胞学会秋期大会；2022年11月5日(土)～6日(日)；仙台  
→開催見合わせ
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス(合同会議)のサポート  
<韓国>  
第19回日韓細胞診合同会議；  
2021年9月4日(土) (韓国) 予定であったが、→2022年に再延期  
2022年9月3日(土)(web会議・AM11:00～2時間、両国から2名ずつの演者)で調整中  
<タイ>  
第28回日-タイ細胞診ワークショップ  
2022年1月19日(水)～21日(金) Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand →中止  
タイ側では、タイ国内における対面式開催を希望、webやhybrid開催の予定はなし  
2023年1月の再開を予定・検討中  
<中国>  
2022年8月の中国細胞学会への講演要請があったが、web講演での通訳の問題が解決で

きず、今回は見合わせる予定

3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2022 の企画、運営

2021 年度のワークショップは、covid-19 感染拡大により中止。

2022 年度のワークショップは、先方から 2022 年 12 月の開催を希望。

→ 下記日程について Ali 先生に内諾をいただき、下記施設を仮予約（施設予約費用として 13 万円を MA コンベンション（株）より支払い）

12 月 9 日（金） 13 時～21 時 準備

12 月 10 日（土） 9 時～21 時 本番

12 月 11 日（日） 9 時～17 時 本番

会 場：角筈（ツノハズ）区民ホール（新宿区西新宿） 236 席 WiFi 設備なし

プログラムについては今後 Syed Ali 先生ら・長村先生と調整予定。

4. IAC, ECC のサポート （前回理事会で報告済）

Companion Meeting Japan in ECC 2020

2021 年 10 月 3 日（日）～6 日（水）ポーランド・ヴロツワフ（日本から web 参加にて講演）

5. オーストラリアとの交流

直近の交流なし。なお、オーストラリアから日本に招待したことはあるが、その逆はまだ実現していないとのこと。5 月に長村先生が ASC の窓口である Andrew Field 先生と今後 JSCC-ASC で exchange program を行うことについてお話しされた。

6. カンボジアとの交流サポート

学術集会への招請として 2 名分のトラベルグラントを計上・準備したものの現状困難

7. ICC2022 期間中の JSCC Companion Meeting について（資料 1）

2022 年 11 月、ボルチモアでの ICC 開催期間中に JSCC companion meeting を開催

日程；2022, Nov 19 (Sat.) 8:00-10:00

プログラム（演者・座長）最終案；別紙資料 1 にて提示

本件は、森谷卓也委員より国際交流委員会で承認してほしいとの依頼を受け、国際交流委員会で書面審議したところ全員賛成で承認。座長は一部変更となっている。

〔審議事項〕

1. 本会学術集会のスライドカンファレンスにおいて、症例提示と回答の部分のスライドにカンボジアからの先生の学習のために英文併記をお願いすることは可能か。

審議結果→継続審議

質疑：

・若狭 朋子 理事：HP からスライドカンファレンスのページに行きつくのさえ、日本語のみの環境では難しいので英文併記の配慮をお願いしたい。

・都築 豊徳 理事：HP から該当ページに入るためのイントロダクションのページを作成すればたどり着けるのでは？

・佐藤 之俊 理事長・榎本 隆之 委員長：GLOBAL な時代で、海外からの参加者が理解しやすいように、英文を併記してわかりやすくした方がよいのでは？

・藤井 多久磨 理事：症例のフォーマット作成は学術でお願いし、学術集会会長から出題者に英文併記を依頼するようにはどうか？

・榎本 隆之 委員長：若狭 朋子 理事にフォーマットを作成していただき、学術で確認してもらい、学術集会から演者に依頼するよう、お願いしたい。

・作成したフォーマットを学術委員会で承認後、学術集会長に依頼する形で進めることになった。

2. 2023 年春期（もしくは秋期）大会の際に JSCC-ASC exchange program を行う件について  
審議結果⇒承認

質疑：

・長村 義之 監事より、シニア 1 名と若手 1 名を各学会に相互に招待する方向で進んでいる旨の報告があった。来年の学術集会大会長と相談したい。

・田畑 務 委員長： 今後、海外演者を招聘する場合の予算について・・・学会として国際交流の継続性を考えるのであれば、国際交流委員会が主導することが望ましく、国際交流委員会がプログラムを立案した上で経理に予算を申請する方向で進める方がよい。相手国側との取り決めも必要と考える。

・長村 義之 監事： IAP では、海外からの演者に対してはプレミアムエコノミーで学会が補助する形式をとっているが、日本では学術集会会長の思いでビジネスで招待することもあり、学会が負担する基本に加え、ある程度自由度を持たせておいた方がよいのではないかと考える。

・藤井 多久磨 理事： 学術集会側が企業から資金を集める額は今後減ってくるものが危惧される。学術集会側の予算が逼迫されてくる危険性を認識しておく必要がある。

・榎本 隆之 委員長：Asian forum についても国際交流委員会側が開催するかどうかも含め、企画して、また予算を申請する形でよいか？

・佐藤 之俊 理事長： その形が望ましい。

・横山 正俊 理事・岡本 愛光 副理事長： 継続性の観点では、国際交流委員会が主導して行っていくことが望ましい。

・十分な審議の上、国際交流委員会が主導して相手国とも打ち合わせた上、各企画を立案して、計理委員会に予算申請する方式とすることが承認された。

3. JHU-ASC-JSCC 2021 Joint Cytopathology Course 演者案（資料 2）

現在、演者として、(敬称略) Syed Z. Ali (thyroid, salivary gland, gyne), Peter B. Illei (lung, serous effusions), Momin T. Siddiqui (pancreas, urinary Paris system), Robert Y. Osamura (digital cytology), Takayuki Enomoto (gyne), Takuya Moriya

(breast), undetermined (digital cytology), Koji Nishino (gyne) を予定している。  
審議結果⇒承認

#### 制度審議委員会 (委員長 宮城 悦子) 【資料なし】

##### [報告事項]

第1回理事会後、当委員会への審議依頼なし。今後各委員会からの依頼に応じて制度審議委員会で審議を行っていく。

##### [審議事項]

なし

#### 医療安全委員会 (委員長 藤井 多久磨) 【資料なし】

##### [報告事項]

##### 1. 医療安全セミナー開催

第62回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 細胞診と医療の質・安全を考える

演者： 群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授 小松康宏先生

座長： 近畿大学奈良病院 病理診断科 部長 若狭朋子先生

日時： 2021年6月5日(土) 15:40～16:40

第60回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名： 病理検査室における医療安全 ISO15189 の視点

演者： 岡山大学病院病理診断科 柳井広之先生

座長： 藤田医科大学医学部産婦人科学 教授 藤井多久磨

日時： 2021年11月20日(土) 17:00～18:00

第63回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 医療安全の歴史を踏まえ、  
病理診断部門での医療事故事例を考える

演者： 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門  
部門長 瀧浪將典先生

日時： 2022年6月11日(土) 15:40～16:40

##### 2. 医療安全セミナー開催予定

第61回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名： 医療訴訟に潜む闇 (仮)

演者： 東京神楽坂法律事務所 水沼直樹先生

日時： 未定 (会期：2022年11月5日(土)・6日(日))

##### 3. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく

(鑑定人およびそれに関する臨時の全域)

4. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会 (委員長 伊藤 仁) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 演題募集の際の倫理指針について、2022年の第61回日本臨床細胞学会秋期大会(伊藤潔学術集会長)から適用されることになり、61巻3号イエローページ委員会だよりおよびHPのお知らせに掲載した。

〔審議事項〕

特になし。

利益相反委員会 (委員長 大平 達夫) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人のCOI申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 2022年利益相反自己申告書の提出と回収。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会 (委員長 小田 瑞恵) 【資料1~2】

〔報告事項〕

1. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。
  - ・ 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUSスタディ)(臨床試験主任研究者、青木大輔先生)
  - ・ 「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生)の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間的一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討(管理責任者、佐藤之俊先生)

2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔審議事項〕

1. 定款細則の「公益社団法人日本臨床細胞学会 臨床試験審査の指針」の改定について  
理由：2021年3月23日より「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が統合され、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」として定められた。なお「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」は2021年6月30日に廃止となったので、「公益社団法人日本臨床細胞学会 臨床試験審査の指針」を上記に沿った内容に改定（資料1.2）したい。

審議結果⇒承認（制度審議委員会で検討へ）

#### IAC連絡委員会（委員長 青木 大輔）【資料1】

〔報告事項〕

1. 第21回国際細胞学会 ICC2022 が第70回米国細胞病理学会との併催で2022年11月15日から20日まで米国Baltimoreにて開催される。Web-basedとはならない見込みであり、是非日本からも多くの先生に参加していただきたい。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。既にAbstractの募集は締め切られた（case reportは受け付けない）。

プログラム内に、JSCC Companion meeting が開催される（資料1）

2. 5月13, 14, 15日に、ポルトガルのリスボン市でIAC Strategic Meeting（将来構想検討会議）が開催され、IAPのEducation, Foundation, Publication, Research, Social mediaなどが討論された。IACの今後進むべき道が示されており、後日公表の予定である。

（長村 義之監事より同meetingにおいて、①資格試験のガラススライドのオンライン化を進める、②CT(IAC)メンバーを増やすことを検討する、③Acta Cytologicaのオンラインのみへの変更、④WHOとの協力で肺・悪性リンパ腫・軟部腫瘍・肝胆膵の細胞診の国際基準（purple book）作成事業を展開している、などの議論があったことが報告された。またIAC award委員会において、青木 大輔 理事がThe Kazumasa Masubuchi life time achievement in clinical cytology awardを受賞されたことが報告された。）

〔審議事項〕

なし

#### 臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）【資料1～2】

〔報告事項〕

2022年事業計画として 下記の研究事業を昨年度に引き続き継続する。

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）

1. 追跡調査：被験者の6年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を2023年3月31日までと2年間延長している（資料1）。

2. データの解析、論文化：研究期間内を目途に作成。論文には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

3. 2022年5月19日から25日にかけて通信委員会を開催した（議事録：資料2）。

通信委員会では、森定先生より、『現在、CITRUS Studyは、「追跡相」に入っており、医療機関に対する追跡調査、一部の被験者に対する個別の追跡調査を、研究事務局、データセンター（神戸TRI）、EDC管理担当（メディカルエッジ）、関係医療機関と協力して実施しており、2022年秋ごろにデータの固定、その後論文化を行う予定である。予算を超えての経費が必要なため、研究運営費用の一部を、研究代表者個人の研究費から拠出しつつ本研究を進めている。』と報告がなされた。

またCITRUS studyの研究代表者の青木先生より、『RCTなので、biasを回避するためデータ固定の後でないと、両群の比較が出来ないことから、発表の機会がなかなかないが、現在、多くの受診者のフォローアップを行っている。3月～4月にかけて、フォローできていない受診者にその後の健康状態の調査のため、約3000人個々に書面を送付し、今秋にはデータ固定が出来る見込みである。山梨県と柏市の地域の先生方には、過分のご尽力をいただいたものの、受診者が同じクリニックに行くとは限らず、精密検査の方法もまちまちで、今回の研究を通じて、がん検診の研究の難しさ、フォローアップの難しさを感じている。実装化を視野に入れた場合には、さらに詳細なアルゴリズムを構築する予定』との説明をいただき、引き続きの支援の要請があった。

2022年度末までにCITRUS studyの論文化に向けて、委員会内で支援することを再確認した。

研究代表者の青木 大輔 理事より、2022年秋を目標にデータを固定する予定である、RCTであるので、途中で経過を発表するとバイアスが発生する危惧もあり研究成果を示すことができずにいるが、研究成果の発表まで今しばらくお待ちいただきたい旨の報告がなされた。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ（委員長 森井 英一）

【資料なし】

〔報告事項〕

1. 会議をメールで複数回行い、指針初版の英語版校正の最終版を確定した。並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を議論している。
2. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証する。



〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ  
(委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当する。
2. 液状化検体細胞診における検討を進める。
3. 次の検討課題として、実際の臨床検体を用いた研究を進めることを計画している。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔報告事項〕

1. IAC-WHO/IARCが進める呼吸器細胞診国際基準の出版 (purple book) に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見のWEB公開を目指す。
4. 異型細胞に関する検討を進める。
5. 新たに提案した4段階の判定基準に関する検討を進める。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析中 (継続)。多施設共同研究を2023年1月まで延長する。
2. 成果を2022年秋の本学会学術集会、および論文で発表する。
3. 乳癌取扱い規約 (日本乳癌学会) の改定に際し審議事項として取り上げられており、掲載されるよう働きかけ行う。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 各小委員会の改訂案が3月末に揃ったため、体裁を整えた。(現在3回目の改訂中)

2. その後、委員会内で相互チェック、修正を行っている。
3. 2022年秋期大会において、3領域に絞って解説をする機会を得た。
4. 改定した内容を学会ホームページ等で公表する。
5. 2025年の全面改訂に向けた課題を明らかにする。

〔審議事項〕

1. pdf作製の予算化について

具体的な予算案について後日報告する予定である。

審議結果⇒承認

・金原出版ではpdf出版は予定していなかったが検討していただいている。もし金原出版で対応できない場合は他の出版社を当たる予定である。

#### デジタルサイトロジー・AI検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）【資料1～2】

〔報告事項〕

1. 先日委員会を開催し、委員を二つに分け、以下の2点を担当することとした。
  - ・デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
  - ・デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査
2. 2022年度第1回デジタルサイトロジー・AI検討WG Web会議の実施（資料1.2）

〔審議事項〕

なし

#### 公益社団法人化10周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料なし】

〔報告事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループを組織し、事業内容の詳細を決定し推進する。本日は議を行い、方針を検討した。
2. 以下の3つの事業を進める。
  - ・10周年記念講演会・祝賀会（2024年4月28日 東京国際フォーラムを予定）
  - ・記念誌編纂
  - ・広報活動

予算は、本年度の収支相償等を用いることを予定している。

〔審議事項〕

なし

#### 2023年度・2024年度評議員選出委員会（委員長 森井 英一）【資料1～4】

〔報告事項〕

1. 2023・2024年度日本臨床細胞学会評議員候補者について

2022年4月1日時点正会員数5714名、この8%は457.12名。これより457名を評議員候補とし、2022年評議員申請者数503名(前回522名)【内訳:医師365名(前回392名)、技師138名(前回130名)】内、条件クリアの申請者501名について審議を行った。

※学会所属歴不足2名(医師)、条件は2016年12月31日以前の入会者

評議員候補のお知らせの発送はGW明けに行われ、辞退する場合や、お知らせに記載されている事項に修正がある場合は5月31日までに事務局に連絡。

最終的な評議員は本理事会審議事項で審議後、承認される予定である。

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 2023-2024年度役員選挙スケジュール(0.03\_2023・2024年度役員選挙スケジュール(案))

森井 英一 副理事長より理事候補選挙スケジュールの予定が報告された。主なスケジュールは、

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 8月9日   | 第1回理事候補選挙管理委員会開催               |
| 8月15日  | 全国選出理事選挙『会告』をHPに掲載             |
| 8月29日  | 立候補締め切り                        |
| 9月14日  | 全国選出理事選挙書類発送、9月30日消印有効         |
| 10月6日  | 事前開票                           |
| 10月12日 | 第2回理事候補選挙管理委員会開催               |
| 11月5日  | 2022年度第3回理事会にて全国選出理事候補者、次点者の承認 |
| 11月9日  | 地方選出理事候補選挙『会告』をHPに掲載           |
| 12月7日  | 立候補締め切り                        |
| 12月22日 | 地方選出理事選挙書類発送、2023年1月20日消印有効    |
| 1月26日  | 事前開票                           |
| 1月27日  | 第3回理事候補選挙管理委員会開催               |
| 1月31日  | 通信理事会にて地方選出理事候補者の承認            |

2. 今後のスケジュール (0.04\_今後のスケジュール)

予定されている理事会のスケジュールについて確認が行われた。

- |       |          |
|-------|----------|
| 10月2日 | 第1回常務理事会 |
| 11月5日 | 第3回理事会   |
| 2月11日 | 第2回常務理事会 |
| 3月18日 | 第4回理事会   |

[審議事項]

1. 会員資格停止者について (0.02\_資料1\_会費滞納者一覧)

審議結果⇒承認 (2年以上の会費滞納者の資格停止が承認された。本日まで会費納入された方はこのリストから外す。)

2. 会員資格復帰希望者について (0.02\_資料2\_会員資格復帰希望者)

審議結果⇒承認 (2名の復会が承認された。)

3. 2025年度(第66回)春期大会長選出について

佐藤 之俊 理事長より、2名の立候補があり、大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、田畑 務理事(東京女子医科大学 産婦人科)を推薦することとなった旨報告された。

審議結果⇒承認

選出された田畑 務 理事より挨拶がなされた。

学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会を中断して行われた。

理事長 佐藤 之俊

副理事長 森井 英一、齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、岡本 愛光

学術委員会委員長 前田 一郎

前理事長 青木 大輔

(役員等選任に関する施行細則第2条より)

4. 2023・2024年度日本臨床細胞学会評議員候補者について (0.05\_資料1\_2023・2024年度評議員選出者50音順(理事会報告用))

評議員選出委員会森井委員長より候補者457名が推薦された。

審議結果⇒承認 (457名の候補者について承認された。)

5. 理事候補選挙管理委員会委員長承認

佐藤 之俊\_理事長より、森井副理事長が推薦された。

審議結果⇒承認 (森井 英一 副理事長が委員長として承認された。)

6. 理事候補選挙管理委委員会(案)承認 (0.05\_資料2\_2023・2024年度理事候補選挙管理委員会案(案))

佐藤 之俊 理事長より、委員会案が示された。

審議結果⇒承認 (2023・2024年度の理事候補選挙管理委員会案(下記)が提示され、承認)

された。)

委員長： 森井 英一 (副理事長)

副理事長： 齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、岡本 愛光

総務委員会委員長： 進 伸幸

理事：

1) 婦人科系からの委員

小田 瑞恵、生水 真紀夫、田畑 務、藤井 多久磨、矢納 研二

2) その他の領域からの委員

病理： 井上 健、都築 豊徳、羽場 礼次、前田 一郎、三上 芳喜

呼吸器： 伊豫田 明

消化器： 廣岡 保明

細胞検査士： 阿部 仁、伊藤 仁、湍木 康雄

幹事 (総務委員会幹事)：片岡 史夫、星 利良、和田 直樹

7. 理事候補選挙地方比例配分 (案) の承認 (0.05\_資料 3\_2023・2024 年地方比例配分 (案))

審議結果⇒承認

北海道地区 1名、東北地区 1名、関東地区 5名、中部地区 1名、

近畿地区 2名、中国四国地区 2名、九州地区 2名 計 14名

8. コルポスコピーに関する研修会の開催について (藤井 多久磨 理事)

婦人科医だけでなく病理医を含めた教育活動として、コルポスコピーに関しての研修会を日本婦人科腫瘍学会と共同で開催することについて検討を開始したい。

審議結果⇒承認

9. 専門医名簿 (専門医番号、所属施設を含むもの) の管理について (青木 大輔 理事、専門医会会長)

現在、細胞学会の HP に専門医の名前のみが掲載されている。専門医会の HP はだれでもアクセスできるので、専門医番号と勤務先の情報も含めた専門医名簿については、今後、学会が一元管理することとし、学会ホームページのマイページ内へ格納することを検討していただきたい。

審議結果⇒承認 (個人情報に留意し情報処理委員会で検討を進める。)

10. 本会学術集会のスライドカンファレンスにおける英文併記について (国際交流委員会での審議事項) (前田 一郎 理事)

学術委員会としては、学術的に検討する部分はないので関与しない。大会長マターとすることでのよいのではないかと。浜松フォトニクスとの相談、発表者に英文表記していただくことを

徹底する、HP の中で英語表記できるシステムを作るということが必要であるとの意見が示された。

審議結果⇒継続審議

質疑：

- ・若狭 朋子 理事：英文併記は、東南アジア諸国における細胞診のレベル向上の一助となると考えており、国際交流委員会より個々に学術集会長にお願いさせていただきたい。
- ・藤井 多久磨 理事：持続可能性を考えるのであれば、個別に学術集会長に依頼するのではなく、部署を決定しプラットフォームを作成する形が望ましいのではないか。
- ・森井 英一 副理事長：翻訳サイトを使用するためのマニュアルを作成し共有することを考えてはどうか。

---

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、森井 英一 副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2022年7月12日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

